

お菓子手に笑顔

ろうそくもらい
電信通で初実施

電信通・西別院ほんおどりが5日、帯広市内の本願寺帯広別院(西別院)境内で開かれた。大勢の人が多彩な出店やイベントを楽しんだ他、道内一部地域の七夕の風習「ろうそくもらい」が初めて行われ、お菓子を手にした子供たちの笑顔がはじけた。

ろうそくもらいは、子供

たちが「ろうそく出せ、出せよ、出さないとかつちやくぞ」と歌い、家庭からお菓子をもらって歩く風習。十勝ではあまり行われていなかったが、地域の絆をより深めようと電信通り商店街振興組合(長谷渉理事長)が企画した。

この日は境内の3つの模擬店舗が参加し、ちょうち



んを持った子供たちが声を合わせて歌うと、店主が順番にお菓子を手渡した。市内の土合祥大ちゃん(6)は「お菓子をもらえてうれしい。また来年もやりたい」と話していた。

長谷理事長は「初めての試みだが、子供たちに喜んでもらえたと思う。将来も続いていけば、地域のつながりが強くなる」と話していた。来年からは8月7日の七夕に、子供たちが同商店街などを練り歩く形で行う予定。(伊藤亮太)

「ろうそくもらい」でお菓子をもらい、笑顔を見せる子供たち(塩原真撮影)